



平成29年1月26日

関係各位

第12回長寿医療研究センター国際シンポジウムのご案内

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターでは、明るく活力ある長寿社会を推進するために、長寿医療分野の研究者並びに有識者を招聘し、「健康と長寿」に関する国際シンポジウムを平成17年より開催しております。

今年の第12回シンポジウムは、

“Frailty and dementia ~ From its pathogenesis to prevention and treatment ~”

というテーマを取り上げ、より良い長寿医療を構築していくための課題を議論します。

参加申し込み方法

当センターウェブサイト (http://www.ncgg.go.jp/seminar/ISGG_2016.html) よりお申し込みください。申込期限は平成29年2月10日（金）です。皆様の参加をお待ちしています。

開催概要

- 開催日：平成29年3月4日（土）9：30～16：50
会場：あいち健康プラザ 健康宿泊館プラザホール
〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1
TEL：0562-82-0211 (<http://www.ahv.pref.aichi.jp/>)
主催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
共催：公益財団法人長寿科学振興財団
参加費：無料（定員300名）
使用言語：英語（日本語への同時通訳あり）

お問い合わせ

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 国際シンポジウム実行委員会事務局
〒474-8511 愛知県大府市森岡町七丁目430番地
TEL：0562-46-2311（内線2503） FAX:0562-88-3007

※参加証は発行いたしません。Web登録された方については、当方から参加できない旨の連絡がない限り、全員参加できます。

Frailty and dementia

-From its pathogenesis to prevention and treatment-

9:30»9:35 Opening Remarks Kenji Toba, National Center for Geriatrics and Gerontology

Session I Pathogenesis of frailty and sarcopenia

Moderators: Katsuhiko Yanagisawa, Mitsuo Maruyama

9:35»11:50 Perspective of frailty research in the 21st century

Hidenori Arai, National Center for Geriatrics and Gerontology

Age-Related Physical Frailty and its Complex, Multi-systemic Biological Basis

Jeremy D. Walston, Professor of Medicine, Johns Hopkins University

Molecular mechanism of muscle atrophy in sarcopenia

Shin-ichi Takeda, National Center of Neurology and Psychiatry

Biology of skeletal muscle aging and application for drug development

Ki-Sun Kwon, Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology

Role of Akt in skeletal muscle in the protection of sarcopenia and aging

Kohjiro Ueki, National Center for Global Health and Medicine

Luncheon Seminar

Moderator: Yukihiko Washimi

12:00»12:50 Randomized controlled trial to prevent frailty/sarcopenia & cognitive decline-TOYOTA Preventive Intervention for Cognitive decline and Sarcopenia (TOPICS)

Masafumi Kuzuya, Nagoya University

Session II Epidemiological approach for frailty and cognitive impairment

Moderators: Hidenori Arai, Shosuke Satake

13:00»14:50 Strengths and weaknesses in the choice of a mono- versus multidimensional approach to frailty

Matteo Cesari, Centre Hospitalier Universitaire de Toulouse

Short and long-term effects of a multifactorial intervention for pre-frail and frail elderly on their functional health: a randomized, controlled, crossover trial within a cohort study

Shoji Shinkai, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

Challenge and impact of Korean Frailty and Aging Cohort Study (KFACS) on frailty and cognitive impairment research

Chang-Won Won, Kyung Hee University

Cognitive Frailty and Incidence of Dementia in Older Persons

Hiroyuki Shimada, National Center for Geriatrics and Gerontology

Session III Clinical applications of frailty and dementia

Moderators: Atsushi Harada, Takashi Sakurai

15:00»16:45 Implementation of Integrated Healthy Aging Clinic to investigate frailty and sarcopenia in the clinical setting

Yasumoto Matsui, National Center for Geriatrics and Gerontology

Frailty, cognitive impairment, and disruption of cerebral white matter network in patients with diabetes mellitus

Atsushi Araki, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology

Robotic and rehabilitation approach to frailty and dementia

Izumi Kondo, National Center for Geriatrics and Gerontology

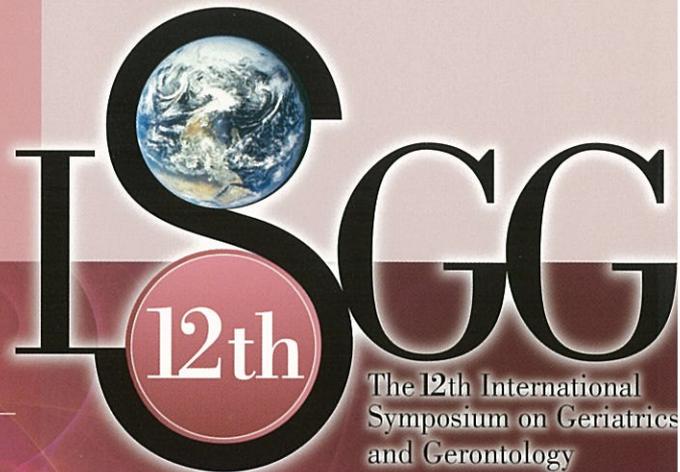
What factors affect hippocampal volume with ageing? An MRI study from a large scale cohort (NILS-LSA)

Takashi Kato, National Center for Geriatrics and Gerontology

Longitudinal study of frailty and cognitive impairment in Japanese elderly

Hiroshi Shimokata, Nagoya University of Arts and Sciences

16:45»16:50 Closing Remarks Hidenori Arai, National Center for Geriatrics and Gerontology



Saturday, 4th March, 2017

9:30-16:50

Health Accommodation Wing, Plaza Hall, Aichi Health Plaza

「フレイルと認知症」

～メカニズムから予防・治療へ～

日時 | 2017年3月4日(土) 9:30~16:50

場所 | あいち健康プラザ プラザホール

<http://www.ahv.pref.aichi.jp/>

■お申込み・お問い合わせ先

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
国際シンポジウム実行委員会事務局

〒474-8511 愛知県大府市森岡町七丁目430番地

TEL.0562-46-2311 (内線 2503) FAX.0562-88-3007

http://www.ncgg.go.jp/seminar/ISGG_2016.html

参加申し込みは「Web登録」となります。2017年2月10日までに当センターHPより登録をお済ませください。

参加費無料 定員300名 申込締切 2017年2月10日(金)

主催: 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

共催: 公益財団法人長寿科学振興財団

後援: 一般社団法人日本老年医学会、日本基礎老化学会、公益社団法人日本老年精神医学会、一般社団法人日本認知症学会、一般社団法人日本認知症ケア学会、一般社団法人日本糖尿病学会、一般社団法人日本神経学会、日本認知症予防学会、公益社団法人日本整形外科学会、愛知県整形外科医学会、一般社団法人日本内科学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本ニューロリハビリテーション学会、一般社団法人日本静脈経路栄養学会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人日本病態栄養学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、日本外科代謝栄養学会、一般社団法人日本老年学学会、日本サルコペニア・フレイル学会、日本歯学会、名古屋大学、名古屋市立大学、藤田保健衛生大学病院、愛知医科大学、愛知学院大学、日本福祉大学、三重大学、国立大学法人浜松医科大学、国立大学法人岐阜大学、公益社団法人愛知県医師会、一般社団法人愛知県歯科医師会、一般社団法人愛知県薬剤師会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人愛知県看護協会、公益社団法人日本薬師会、公益社団法人認知症の人と家族の会、一般社団法人日本慢性期医療協会、一般社団法人日本病院会、公益社団法人日本精神科病院協会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人日本介護福祉士会、公益社団法人日本認知症グループホーム協会、一般社団法人日本介護支援専門員協会、厚生労働省、愛知県、名古屋市、大府市、東浦町、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、株式会社日本経済新聞社名古屋支社、東海ラジオ放送、メ〜テレ、テレビ愛知、中日新聞社

第12回長寿医療研究センター国際シンポジウム

テーマ: 「フレイルと認知症」～メカニズムから予防・治療へ～

9:30 開会のご挨拶 国立長寿医療研究センター 鳥羽理事長

9:35-11:50 セッション1. フレイル、サルコペニアの病態解明

座長: 柳澤 勝彦先生、丸山 光生先生

1. 21世紀のフレイル研究の展望 (15分)

国立長寿医療研究センター 副院長 荒井 秀典先生

2. 加齢により身体的フレイルとその複雑な多系統的生物学的病態 (35分)

Dr. Jeremy D. Walston

Co-Director, Biology of Healthy Aging Program, Division of Geriatric Medicine and Gerontology, Professor of Medicine, Johns Hopkins University

3. サルコペニアにおける筋萎縮の分子機構 (25分)

国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 武田 伸一先生

4. 骨格筋老化の生物学と薬剤開発への応用 (35分)

Dr. Ki-Sun Kwon

Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology

5. サルコペニア、老化予防のための骨格筋における Akt の役割 (25分)

国立国際医療研究センター 研究所 糖尿病研究センター長 植木 浩二郎先生

12:00-12:50 ランチョンセミナー

座長: 鷺見 幸彦先生

フレイル、サルコペニア、認知機能低下予防のためのランダム化比較試験

名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学教室 教授

葛谷 雅文先生

13:00-14:50 セッション2. フレイルと認知機能低下に対する疫学的アプローチ
座長: 荒井 秀典先生、佐竹 昭介先生

1. フレイルに対する単面的及び多面的なアプローチの長所短所 (35分)

Dr. Matteo Cesari

Centre Hospitalier Universitaire de Toulouse

2. プレフレイル、フレイル高齢者に対する多面的な介入に関する短期的、長期的な介入の身体機能に対する効果:コホートにおけるランダム化クロスオーバー試験 (25分)

東京都健康長寿医療センター 副所長 新開 省二先生

3. フレイルと認知機能研究のための韓国フレイル老化コホート研究のインパクトと課題 (30分)

Dr. Chang - Won Won

Department of Family Medicine, Kyung Hee University, Professor

4. 高齢者における認知的フレイルと認知症の発症 (20分)

国立長寿医療研究センター

老年学・社会科学研究センター予防老年学研究部 部長 島田 裕之先生

15:00-16:45 セッション3 フレイル、認知症研究の臨床的展開

座長: 原田 敦先生、櫻井 孝先生

1. フレイル、サルコペニア研究のためのフレイル外来の開設 (20分)

国立長寿医療研究センター 松井 康素先生

2. 糖尿病患者におけるフレイル、認知機能障害、白質ネットワークの障害 (25分)

東京都健康長寿医療センター

荒木 厚先生

3. フレイル、認知症に対するロボット及びリハビリテーション (20分)

国立長寿医療研究センター 近藤 和泉先生

4. 加齢に伴う海馬の変化に与える要因とは? NILS-LSA における MRI 解析 (20分)

国立長寿医療研究センター 加藤 隆司先生

5. 日本人高齢者におけるフレイル、認知機能障害に関する縦断的研究 (20分)

名古屋学芸大学 大学院 栄養科学研究科 教授 下方 浩史先生

16:45-16:50 閉会のご挨拶 国立長寿医療研究センター
副院長 荒井 秀典先生